

# 現代語畳語・畳語形容詞の構造について

## ——現代中国語、日本語の畳語・畳語形容詞——

田 梅

### 要旨

「同じ言葉を繰り返すことを「畳語」、英語で reduplication という。複数・反復・強調を表す。畳語は、中国語においても日本語においても、新しい単語を生産する手段として常に重要である。

本稿では多種多様な畳語の一つである畳語形容詞について、その重畳形の内部構造を分析して、畳語形容詞と元の語の性質、意味との違い及び畳語形容詞の語義特徴、文法上の機能を検討、究明していきたいと思う。さらに、中国語と日本語を同時に研究する試みを通じて、対照的な効果が期待できる。

### キーワード

形容詞、重ね形、畳語形容詞、状態形容詞、性質形容詞

### 1 はじめに

畳語は複合語の一つで、単語またはその単語の一部をなす形態素などを反復して作られた単語、「同じ単語・語根を重ねた複合語（新明解国語辞典）」である。なお複合語は、「単語のうち、意味・語形の上から二つ以上の単語の結合によって、できたと認められる語（朝日・花見）（スーパー大辞林）」と定義されている。また、同字・同意を重ねた熟語である（悠悠・後の後悔・石を投石する）重言という語もあり、ある単語に接辞などが付いたりしてできた（不機嫌・嬉しがる）派生語という語もある。

### 2 現代語日本語の形容詞

#### 2.1 形容詞

形容詞は事物の性質・状態または人の心情・感情などを表す用言の一つである。活用

として、ク活用の形容詞・シク活用の形容詞の二種類があるが、口語では区別はほとんどない。本稿では活用の違う形容詞を一緒に形容詞として取り扱う。

新しい形容詞を生産するための手段として、接辞が結びついた（真新しい・子供っぽい）派生形容詞、一つの語幹にほかの語が結びついた（ずる賢い・寝苦しい）複合形容詞、および同じ語を重ねたものに接辞「しい」が付加された（ふてぶてしい・晴れ晴れしい・痛々しい）畳語形容詞がある。

#### 2.2 形容詞の種類

主観的な人の感情・感覚を表現しているもの（楽しい・まぶしい・すぎだ）を感情形容詞として、客観的なもの性質・状態・特徴を表現しているもの（鮮やか・大きい・賢い）を属性形容詞として二つに分ける。また、一語で属性形容詞と感情形容詞を兼ねて、二つの用法に使われるものもある。

「足が痛い」＝「痛い」属性形容詞

「胸が痛い」＝「痛い」感情形容詞

さらに、感情形容詞は「感情（嬉しい・つらい）」「感覚（眩しい・痒い・眠い）」に、属性形容詞は「広汎なものごとの属性」「ものに関する属性」「ひとに関する属性」「ことの属性」に詳しく分けられている。

## 2.3 畳語

畳語を構成することを重畳または重複という。辞典などで一般になされている「畳語」の定義を見ると、

『漢字源』同一の単語・語根を重ねて、一語としたもの。

『広辞苑』同一の単語または語根を重ねて1語とした語。

『新明解国語辞典』同じ単語・語根を重ねた複合語。

日本語には畳語が数多く、それらには性格や元々の品詞が異なるいくつかの種類があって、名詞、代名詞、数詞、動詞、形容詞、形容動詞、副詞、感嘆詞、擬声語、擬態語など、畳語できない品詞がないようである。ここでは畳語の成り立ちと種類を見て、

名詞の重複

（国々・色々・ときどき・人々・島々）

代名詞の重複

（我我・どこどこ）

数詞の重

（三三五五・一々）

動詞の重複

（休み休み・泣く泣く・絶え絶え・重ね重ね）

形容詞の重複

（うすうす・寒々・青々）

形容動詞の重複

（けちけち・奇々怪々・稀まれ・戦々兢々）

副詞の重複

（またまた・わざわざ・まだまだ）

感嘆詞の重複

（あらあら・いやいや）

擬声語、擬態語

（ぼつぼつ・ふらふら）などがある。

畳語が多いのは日本語の特徴になっている。この中に名詞、代詞、数詞を重ねて複数を表すものもあれば、品詞が変わったものもある。

例えば、①名詞「色」を重ねて「色々」になって、形容動詞（色々な国）、副詞（色々工夫を凝らす）、名詞（いろいろの花）。②「時」を重ねて「時々」とし、副詞（晴れ時々曇り）、名詞（時々の草花）のように意味がそれぞれ変化し、品詞も変わった。

## 2.4 畳語形容詞

重ね形によってつくった形容詞は畳語形容詞といわれる。重複形式を踏んだものであるから、重複形容詞とも呼称される。形容詞の畳語はほとんど客観的性質・状態を表す属性形容詞であり、畳語形容詞はすべてシク活用である。

畳語形容詞は、派生元の語幹を重ねたものに接辞「しい」が付け加えられ、結合したものである。畳語形容詞には派生元の語幹「A」が存在するが、畳語形容詞の「A」は語幹ではなく、重ねた部分「AA」が語幹で、「AA しい」全体がひとつの形容詞である。また、語全体が重複形態である「畳語」（人々・繰返し繰返し・熱々）とも違う。

## 2.5 畳語形容詞の構造

畳語形容詞の構造である「AA しい」の中には、反復時に連濁が生じる「AA<sup>ん</sup>しい」

「AA<sup>〇</sup>しい」というものも含まれる。繰り返される「A」が漢字1文字の場合、2文字目は「々」で略記される。

派生元として、名詞、動詞、形容詞、副詞、接頭語などいくつかの品詞がある。

名詞を重ねたもの

物（もの）→物々（ものもの）しい  
福（ふく）→福福（ふくぶく）しい

動詞を重ねたもの

忌う（いまう）・忌ふ（いまふ）  
→忌々（いまいま）しい

馴れる（なれる）

→馴れ馴れ（なれなれ）しい

接頭辞を重ねたもの

初初しい

形容詞を重ねたもの

寒い（さむい）→寒々（さむざむ）しい  
弱い（よわい）→弱々（よわよわ）しい

形容動詞を重ねたもの

馬鹿（ばか）→馬鹿馬鹿（ばかばか）しい  
まめ→まめまめしい

名詞とは事物の名を表す自立語で活用がなく、文の主語となることができるものである。名詞を疊語形容詞化することによって名詞としての特徴が部分的に消え、事物の名ではなくて、事物の状態を表すシク形容詞になる。

・生→生々しい

生→① 食物などを煮たり焼いたりしていないこと。

② 作為がなく、ありのままであること。

③ 録音・録画などでなく直接に視聴すること

④ 技術・経験などが未熟であること。

生々しい→

① 今できたばかりのようである。真新しい感じがする。

② 目の前に見ているような感じである。

③ 生身である。生きている。

動詞も同じように、疊語形容詞になると、活用も動詞から形容詞のものへと変わり、意

味も動作、行為から状態を表すように変わる。

・忌う→忌々（いまいま）しい

忌う（いまう）・忌ふ（いまふ）忌む（いむ）  
→縁起が悪いものとして避ける。

忌々（いまいま）しい→悔しく腹立たしい。  
はばかり遠慮するべきである。

## 2.6 疊語形容詞の性質

「疊語形容詞」には人の感情・感覚を表現する語が多い。

疊語形容詞はその派生元（語幹）を重ねたものに接辞「しい」が付け加えられ、結合して「AA しい」となったものである。その「しい」について、『大辞林』は「～しい」を接尾語と定義し、「名詞や動詞の未然形、疊語などに付いて、形容詞をつくる。そういうさまである、そう感じられるという意を表す」と説明。「そういうさま・そう感じられる」という感情が表現できるから、疊語形容詞には心の動きを表すもの、つまり感情形容詞が多いといえる。

## 2.7 疊語形容詞の意味

形容詞を疊語化することによって意味の描写性が高まる、話者の情意、心の動きを表し、派生元の語と比べて、意味の分化が見られる。

寒い→温度の低さを不快に感じる。また、そう感じるほど温度が低い。

寒々（さむざむ）しい→

① いかにも寒そうである。

② 何もなくて殺風景である。

苦い→① 舌を刺激し、口がゆがむような嫌な味である。

② 不快である。おもしろくない

③ つらくて苦しい。

苦苦しい→甚だいとわしい。非常に不愉快

快である。

蒸す+暑い→蒸し暑い

元の形容詞が属性形容詞であろうと、感情形容詞であろうと、疊語形容詞となったものは、感情形容詞である。原形容詞が性質を表すのに対し感情を表すという意味が強くなっている。元の「A」と比べ、重ねる「AA」は話者の情意をもっと表し、たとえば「寒々しい」が「なんかひどく低い温度を感じさせる」とともに「いかにも寒々しそうな様子が生き生きと感じられる」という意味になる。

### 2.8.2 派生形容詞

接辞の付加によってできた派生形容詞は2種類がある。「接頭語+形容詞」と「語彙+接尾語」である。

接頭語派生形容詞、接頭語は後項の形容詞の前に付いて意味を補ったり、変えたりする。

真+白い→真っ白い

いけ+好かない→いけ好かない

心(うら)+悲しい→うら悲しい

### 2.8 疊語形容詞以外の造語形容詞

同一の単語(形態素)を重ねた疊語形容詞以外に、一つの形容詞に他の単語が結びついた複合形容詞と接頭語・接尾語が付加された派生形容詞がある。

接尾語派生形容詞、語彙(名詞・副詞・動詞の連用形など)+「い」「しい」形容詞型接尾語。

自慢+たらしい→自慢たらしい

わざと+がましい→わざとがましい

食べる+づらい→食べづらい

いや+らしい→厭らしい

#### 2.8.1 複語形容詞

複合形容詞の語構成:「名詞+形容詞」。前項の名詞と後項の形容詞はほとんど主語と述語の関係である。

耳+新しい→耳新しい

力+強い→力強い

### 1.9 現代語の疊語形容詞

「逆引き広辞苑」には「…しい」語尾をもつ単語が全部で524個あり、そのうち疊語形容詞は以下の通りである。

形容詞複語形容詞の語構成:

「形容詞語幹+形容詞」

前項の形容詞が後項の形容詞を修飾するもの、或は並列的な関係があるもの。

堅い+苦しい→堅苦しい

甘い+辛い→甘辛い

長い+細い→長細い

- 愛愛しい 粗粗しい 淡淡しい
- 痛々しい 忌々しい 初々しい
- うだうだしい 疎疎しい 雄々しい
- 重々しい 甲斐甲斐しい 角々しい
- 軽々しい 仰仰しい くだくだしい
- くどくどしい けいけいしい 毳毳しい
- 神々しい 事事しい 細々しい
- 冴え冴えしい 寒々しい 白々しい
- 凶凶しい 清々しい 拗ね拗ねしい
- 騒騒しい 高々しい 猛々しい
- たどたどしい 蝶々しい 艶々しい
- 毒毒しい 刺刺しい 捗々しい
- 長々しい 生生しい 慣れ慣れしい
- 馬鹿馬鹿しい 苦苦しい 賑々しい
- 憎々しい 捗々しい 馬鹿馬鹿しい

動詞複語形容詞の語構成:

「動詞連用形+形容詞」

後項の形容詞が前項の動詞の動作・作用・状態を修飾する。

寝る+苦しい→寝苦しい

恐れる+多い→恐れ多い

華々しい 晴れ晴れしい美々しい  
 福福しい ふさふさしいふてぶてしい  
 骨骨しい 禍禍しい まざまざしい  
 まめめめしい瑞々しい 女女しい  
 物物しい 寥寥しい 由々しい  
 余所余所しい弱弱しい 凜々しい  
 麗々しい 若々しい

形容詞語幹の重複、名詞の重複に「しい」をつけたものが多い、動詞語幹を重ねたものが少ない

### 3 現代中国語の形容詞

#### 3.1 形容詞

日本語の形容詞と同じく、おもに物事の性質や状態を表す語彙である。しかし、日本語の形容詞は「い」或は「しい」の語尾があり、活用によってク活用の形容詞・シク活用の形容詞の二種類がある。中国語は日本語と違って、形容詞には決まった語尾がなく、活用もない。単語の外形から品詞の判定が難しいので、文法機能と意味によって判断することが多い。

#### 3.2 形容詞の類型

形態上において、大きく「簡単形式形容詞」と「複雑形式形容詞」の二類に分けられる。「簡単形式形容詞」とは単音節形容詞“大(大きい)・慢(速度が遅い)・苦(苦い)”と一般二音節形容詞“漂亮(美しい)・麗だ・聪明(利口だ)”を含む形容詞の基本形式である。「複雑形式形容詞」とは(1)重ね型形容詞(疊語形容詞)(2)単音節形容詞基本形式の後ろに付加成分のつく形容詞を含むものである。

音節数から、単音節語と複音節語に分け、さらに、複音節語を二音節語と多音節語に分ける。

#### 3.3 形容詞の特徴

中国語形容詞の特徴として、

- ① 副詞の修飾を受ける。
- ② 前に否定の副詞“不”をつけて、打ち消す意味をあらわす
- ③ 後ろに変化を表す助詞“了”をつけて、状態の変化を示す
- ④ そのまま述語になれる。
- ⑤ 直接に名詞の前について、連体修飾語になれる。
- ⑥ 「A不A」の形式で、選択疑問文をつくれる。
- ⑦ 一部分の形容詞は重ねることで、疊語形容詞をつくることができる。
- ⑧ 目的語を伴う事は出来ない。

・形容詞は連体修飾語、連用修飾語、述語になる事が出来る。

連体修飾語

○他是个好人。(彼はいい人です。)

述語

○这儿的水果又便宜又好吃。(ここの果物が安くておいしいです。)

連用修飾語

○快点儿来！(速く来てください。)

・形容詞が述語の位置に置かれると比較・対照の意味が出るので、比較・対照の表現をしない場合には“很”“挺”“非常”などの程度を表す副詞が必要。主語、述語しかない短い文の場合にはうまく意味が取れない。程度の強弱は、文の語気、個人の理解、前後の文脈から意味を判断する。

・対比・否定

○今天冷，昨天不冷。

(今日は寒いが、昨日は寒くなかった。)

副詞の修飾“很” “非常”

○今天很冷。

(今日は寒い。／今日はとても寒い。)

○風景非常美(景色が美しいです。／景色が非常に美しいです。)

・ 選択疑問文

「形容詞＋不＋形容詞？」という文型で肯定・否定を並べて、疑問を表すことが出来る。

○她漂亮不漂亮？(彼女は綺麗ですか  
／彼女は綺麗ですかどうか／彼女は綺麗  
ですか綺麗ではありませんか)

・ 助詞“了”

○枫叶红了。(紅葉が赤くなった)

・ 名詞の前に

○红的苹果好吃。(赤いリンゴがおいしい)

○红苹果好吃。(赤リンゴがおいしい)

### 3.4 疊語

中国語では「疊語」を“重叠词”と言って、合成語、双字、疊字ともいう。単語が重ね形になって生き生き(生动)している状態が描写できることから、“单词的生动形式(単語の生き生き形・形容詞強調形)”と定義する見方もある。

現代中国語において文法上での独特な語構成手段の一つとして、語の重畳は多くみられる現象であり、名詞、形容詞、副詞、動詞、数詞、擬音語・擬態語の重ねなどを含む。この重畳に関しては、文法上・意味上・音韻上の様々な複雑な問題がある。

疊語を形成するパターンは様ざまである。

主なパターンは：

AA, AAB, ABB, A 里 AB, ABAB, AABB, AABC, ABAC, ABCC

#### 3.4.1 疊語の構造

##### 3.4.1.1 単音節語彙の疊語構造

###### ① AA 類

「A」という形態素は動詞・名詞もあるが、わずかで、ほとんどが物事の姿・状態・性質などを表す形容詞である。

一部の単音節名詞を重ねると「すべての」という意味になることがある。

・ 人→人人(すべての人、みんな)

・ 天→天天(毎日、日々)

単音節形容詞の重ね「AA」は連体修飾語、連用修飾語、述語として用いられる場合「AA的・AA儿」という形をとることが多い。

・ 大(大きい)→大大(的)(でっかい)

○鼻子大大的(鼻がでっかい)

○大大的鼻子(でかい鼻)

・ 慢(速度が遅い)

→ 慢慢(儿)(ゆっくりと)

○慢慢儿走(ゆっくり歩いて)

形容詞を重ねることによって、しばしば副詞に転用されて、意味の描写性を高める強調用法がある。

###### ② ABB 類

「A」は大部分が単音節の形容詞である。「BB」は汎用的接尾語または特定の接尾語であり、独立語にならず、語彙として具体的な意味がほとんどないが、「A」の後に置いて、生き生きとした、可愛いイメージを与える。

・ 胖(人が太っている)＋乎乎→胖乎乎(まるまる、ふくらかに太っているさま)

・ 羞(羞じる)＋答答→羞答答(恥ずかしがる様子)

##### 3.4.1.2 二音節語彙の疊語構造

「A」は一音節目、「B」は二音節目の文字を指す。

###### ① AAB 類

「AAB」型の「AA」はほとんどが“悄悄”，“飘飘”のような2音節の副詞、「B」は修飾される語。

- ・静（静かで音がしない・声が小さい）  
→静悄悄（ひっそりと音もなく、こっそりと内密に）
- 悄悄话（内緒話）

[AAB]が動詞性である場合，[AB]は、ほとんど2音節の離合動詞である。

離合詞の構造は「動詞A+目的語B」。その動詞「A」だけを繰り返して重ねて、「AAB」形になる。

- ・散歩（散歩する）  
→散散步（ちょっと散歩をする）
- ・洗澡（お風呂に入る）  
→洗洗澡（ちょっとお風呂に入る）

動詞の「AAB」型は短時間・少量・程度の軽い・気まま・なんとなくといった動作のニュアンスを表現することができる。また、「AAB」型の第二番の音節「A」の発音は軽声になる。（形容詞なら、発音の変化はなし）

## ② A里AB(的)類

「A里AB」型は好ましくない意味や、けなす意味を表す二音節形容詞の重ね形である。

「A里AB」の「～里～」は真ん中に位置していることから、接頭辞、接尾辞と区別するために、接中辞とも称する。

- ・糊涂（ぼんやりしている・愚かである）  
→糊里糊涂(的)（糊涂に同じ）
- ・流气（不良っぽい・不真面目）  
→流里流气（流气に同じ）

## ③ AABB類

「AB」は副詞もあるが、形容詞のほうが多い。元の「AB」形容詞に対して、重ね形「AABB」となり、発音は二番目のAを軽声にするものが多い。

- ・亲热（親密だ・懇意だ）

- 亲亲热热（親しそうな様子）
- ・热闹（にぎやかだ）  
→热热闹闹（わいわいにぎやかな）
- ・高兴（愉快になる・嬉しがる）  
→高高兴兴(的)（うれしそうである）
- ・的确（副詞）（確かに）  
→的确的确（絶対、確かに）

## ④ ABAB類

形容詞の「AB」は比喩的修飾成分「A」を前置きして、「A」のように「B」だと喩える構造である。

「AB」は動詞のほうが多いが、一部の動詞を兼ねている形容詞は「ABAB」型となって、動詞的な感じが強い。

- ・高兴（愉快になる・嬉しがる）  
→高兴高兴（ちょっと嬉しいように）
- ・雪白（雪のように白い）  
→雪白雪白(的)（雪のように真っ白い）
- ・关照（面倒を見る・世話をする）  
→关照关照（ちょっと面倒などをお願い）  
動詞を2回重ねて「ちょっと～する」という意味を表す用法は、厳密に疊語とは言えない。

## ⑤ AABC類

「AABC」型の「BC」は勝手に重ねたり、組み合わせたりできず、単語の数も多くない。慣用語、成語(成)、詩歌、小説など文学的表現に色を添えている。

- ・恋恋不舍(成) 名残を惜しんで別れられない、恋々として去るに忍びない残り惜しい
- ・默默无闻(成) 無名だ・人の注意に引かないように
- ・彬彬有礼(成) 上品で礼儀正しいさま

## ⑥ ABAC類

「ABAC」型の疊は⑤の「AABC」に似て、文学的な表現が多い。「ABAC」の「A」は同じ、「～B～C」はいくつかの語彙の取替ができる。

「A」が“不”である例：

- ・不折不扣(掛け値なし・正真正銘)
- ・不离不弃(捨てない・離れないこと)
- ・不痛不痒(痛くもかゆくもない・急所に触れない)
- ・不三不四(うさんくさい)

#### ⑦ ABCC 類

「ABCC」型も文学的表現に色を添えている語彙である。「～CC」は形容詞の語が多い。

- ・大腹便便(腹がでっぴりと出ているさま)
- ・雄心勃勃(大きな理想に燃えている)
- ・白发苍苍(白髪交じりである)
- ・气息奄奄(氣息奄々・息も絶え絶えである)

### 3.5 “重叠(疊語)”形容詞

普通、単音節形容詞、一部の二音節形容詞及び多数の状態形容詞は重ね型をとることができる。各品詞の疊語の中でも、形容詞重ね形は構成が複雑で、使い方も多種多様である。重ね形の構成方式には完全疊語と音交替的疊語の2つがある。

語意の面では、形容詞を重ね型にすると、語彙の感情色彩をより強化し、「本当に」「確かに」といった強調の意味を加え、具体的な状況、状態を描写する。事物の発話時点の具体的な状況を生き生きと描写する語感が感じられ、ある種の量や話者のこの属性に対する主観的判断につながる新しい形容詞になる。

文法機能の面では重ねられる元の語には形容詞、動詞、名詞などの品詞の制限はないが、重ね機能を持つ語彙が「A」・「AB」の後ろに付いて、新しい状態形容詞に相当する形容詞が形成され、原形容詞としての特徴が部分的に消える。

#### 3.5.1 疊語形容詞の構造

形容詞の重ね形にはいくつかのタイプがある。

- ① 単音節形容詞の「AA」型
- ② 二音節形容詞「AABB」・「ABAB」・「A里AB」型
- ③ 単音節形容詞に後置成分が結合した「ABB」型。

#### 3.5.2 単音節形容詞の重ね

単音節形容詞の重ね形は状語、補語になる場合、程度が深いという状態を表す。定語になると、ふつう、描写作用が強まる。さらに、好感のニュアンスを含む。

##### ① 「A」→「AA」・「AA儿」型

単音節の場合は完全疊語であり、単音節形容詞の重ね形は副詞に転用されて、生き生きとするイメージ、ある程度の親しみが感じられて、ありありとその姿を描写する。

単音節「AA」型は連体修飾語、連用修飾語、述語になる場合「AA的」、「AA(儿)」（“儿化”される）となる場合が多い。口語では第二音節はしばしば第一声に変わる。

- ・大(大きい)→大大的(でっかい)  
○鼻子大大的(鼻がでっかい)
- ・慢(速度が遅い)→慢慢儿(ゆっくりと)  
○慢慢儿走(ゆっくり歩いて)
- ・高(高い)→高高的(高々ようす)  
○高高的个子・个子高高的(背が高い)
- ・饱(お腹いっぱい)→饱饱的(満足してお腹いっぱい)  
○吃得饱饱的了。(お腹いっぱいになった)

##### ② A→ABB型

単音節形容詞基本形式の後ろに付加成分のつく形容詞には、形容詞「A」に接尾語「BB」がつく。「BB」は汎用的接尾語または特定の接尾語であり、語彙として具体的な意味がほと

んどない。「ABB」型になって、修飾する事物に生き生きとしたイメージを与える

- ・胖（人が太っている）+乎乎 →胖乎乎  
（まるまる、ふくらかに太っている）  
○胖乎乎的小手（ふっくらしたお手手）
- ・羞（羞じる）+答答→羞答答  
（恥ずかしがる様子）  
○羞答答的不说话  
（恥ずかしがってしゃべろうとしない）
- ・静（静か）+悄悄（ひっそりと）  
○街上静悄悄的  
（町は静まり返った、ひっそりとした。）

pānghūhū

\* “胖乎乎”と読むと、「太りすぎている」というイメージが表れ、二番の“乎”を“胖乎乎”と軽声に読むか“胖乎乎”の最後に“儿”

pàng

をつけて「r化」“胖乎乎儿”になると、「可愛い」、「ふっくらとして愛らしい」というニュアンスになる。

pānghūhūr

をつけて「r化」“胖乎乎儿”になると、「可愛い」、「ふっくらとして愛らしい」というニュアンスになる。

「A」の後ろに汎用的「BB」接尾語型は～乎乎・～冲冲・～油油・～茫茫・～生生～溜溜・～洋洋・～腾腾・～糊糊など汎用的色々な形容詞と結合できる。

特定の接尾語型「BB」は～颠颠～苍苍～塌塌・～狠狠・～茫茫・～绷绷・～冲冲～慌慌・～晃晃・～歪歪など特定の形容詞としか結合しない。

### 3.5.3 二音節形容詞の重ね

（パターンは多岐にわたる）

二音節形容詞の重ね型は音交替的疊語である。よく状語、補語となり、程度が深いことを表す。定語になる場合は描写作用が強まる。

#### ① AABB 型

元の「AB」形容詞に対して、重ね形「AABB」となり、発音は二番の「A」を軽声にするものが多い。より深い描写の意味をもち、さらに好感を抱く、ほめたたえるなどの感情的色彩をもつこともある。

- ・亲热（親しい）→亲亲热热  
（とても温かい、仲むつまじい）
- ・痛快（愉快である、気分がよい）  
→痛痛快快（存分に痛快に感じる様子）
- ・热闹（にぎやかだ）→热热闹闹  
（わいわいにぎやかな）

#### ② ABAB 型

「A」のような「B」、比喩的修飾成分「A」が後ろの「B」を修飾する二音節形容詞の疊語。発音の変化はない。性質形容詞になる。

- ・雪白（雪のように白い）  
→雪白雪白（雪のように真っ白）

一部の形容詞は同時に動詞を兼ねている。同一語が「AABB」形なら状態形容詞の性質を帯び、「ABAB」形なら、動詞的な感じがある。疊語の型によってその意味も品詞も文法機能も違う。

- ・痛快（愉快である・気分がよい）  
→痛快痛快（気分爽やかに、胸を少しかつとさせる）  
→痛痛快快（存分に痛快に感じる様子）
- ・热闹（にぎやかだ）→热闹热闹  
（ちょっと雰囲気盛り上げる）  
→热热闹闹（わいわいにぎやかな様子）
- ・高兴（嬉しい、うれしがる）  
→高高兴兴（楽しそうな様）  
○高高兴兴地回家去了。（上機嫌で家に帰って行った。）  
→高兴高兴（ちょっと喜ばせる）  
○叫他们高兴高兴吧。（かれらを喜ばせてやろう）

二音節形容詞の重ね形は殆んど「AABB」で

あるが、動詞の重ね形は大部分が「ABAB」である。

動詞の「ABAB」型は時間の短さや動作の量の少ないことを表す。相手をお願いする時、語気を和らげる試みを表す。形容詞の「ABAB」型は疊語動詞の動作量や時間量という意味より、軽やかな気分、気楽な感じを表す。意識的に「させる」という使役表現の働きもする。

また、「AABB」型の重ね型形容詞は連体修飾語、連用修飾語及び補語になることができる。それに対し、「ABAB」型の重ね型動詞はこのような使い方がない。動詞を2回重ねて「ちょっと～する」という意味を表す用法は、厳密には疊語とは言えない。

- ・尝尝（ちょっと味わう）
- ・研究研究（検討してみる）

### ③ A里AB型

「A里AB」型は好ましくない意味やけなす意味がある二音節形容詞「AB」の「A」を重ねて、接辞“里”を挟むという「A里AB」形の疊語形容詞をつくる。「～里～」は真ん中に位置していることから、接頭辞、接尾辞との区別するために、接中辞とも称する。

この構造は「いやに・変に・妙に・ひどく」などの嫌悪する気持ちを加え、嫌悪する気持ちを表す。

- ・糊涂（わけのわからない・ぼんやりする）  
→ 糊里糊涂（愚かしい・余りに物がわからぬ）
- ・小气（けちな・みみっちい）  
→ 小里小气（こせこせしている・けちけちしている）
- ・慌张（慌てふためく）  
→ 慌里慌张（慌てふためくさま）

## 3.6 疊語形容詞と形容詞の違い

疊語形容詞は形容詞としての特徴が部分的に失われている。特に原形と重ね形では文法機能がことなり、語彙的も何らかの意味が付

け加わる。原形容詞が性質を表すのに対して、疊語形容詞は状態を表すなど、二者の性格に差異が見られ、機能に大きな変化も生ずる。

①形容詞の重ね型は程度副詞に修飾されることができない。

中国語の形容詞の特徴として程度副詞“很”，“非常”，“真”などの修飾を受けられるが、疊語形容詞は程度副詞で修飾されることが許されない。疊語形容詞はそれ自身が「量」の程度を持っているからである。

- ・胖(太る)→  
○很胖（とても太っている）  
○非常胖（非常に太っている）  
○真胖（本当に太っている）
- ・胖乎乎（まるまる、ふくらかに太っている様）  
×很胖乎乎  
×非常胖乎乎  
×真胖乎乎

②否定文を作ることもできない。

形容詞の否定表現は形容詞の前に打ち消しの程度副詞“不”を置いてつくられる。否定の程度によって，“不很”，“很不”，“一点儿也不”等否定の程度を表す言葉がつくられるが、状態形容詞である疊語形容詞は程度副詞で修飾されることが許されないから，“不”で否定文を作ることもできない。

- ・胖(太る)  
○不胖(太ってない)  
○不太胖(あまり太ってない)  
○一点儿也不胖(全然太ってない)
- ・胖乎乎（まるまる、ふくらかに太っている様）  
× 不胖乎乎  
× 不太胖乎乎  
× 一点儿也不胖乎乎

③形容詞の後ろに助詞「了」を置いて状態の変化を示す。疊語形容詞の特徴は状態をいきいきと表すことであるから、変化の“了”が付かない。

- 最近胖了(最近太ってきた。)
- 最近有点儿胖了(最近ちょっと太った)
- ×最近胖乎乎了。
- ×最近有点儿胖乎乎了。

④形容詞はそのまま述語になれるが、疊語形容詞は述語になるとき、“的”をつけなければならない。

- 小手很胖(手が太っている)
- 小手胖乎乎的。(ふっくらしたお手手)
- ×小手胖乎乎。

⑤形容詞は連体修飾語になる際、語彙のままであるが、二音節形容詞の重ね形「AABB」はそのままでは連体修飾語になれない。連体修飾語としての文法機能をするには、後置成分“的”を添えるケースがほとんどである。(一部の形容詞はそのまま修飾できる)。連用修飾語になっているときは“地”を伴う。

- 红苹果(赤いリンゴ)
- 红红的苹果(真っ赤なリンゴ)
- × 红红苹果
- 我糊涂了(私はぼんやりした)
- ×我糊里糊涂了。
- 我糊里糊涂的(私は愚かしい奴だ)

⑥形容詞は「A不A」の形式で、選択疑問文をつくれる。疊語形容詞にはその表現ができない。

- 胖不胖(太っているか・太っていないか)
- ×胖乎乎不胖乎乎

⑦同じ形容詞でも重ねる形によって、意味が

違い、品詞も違う。

- 高兴→形容詞→高高兴兴(楽しそうな様)
- 高兴→動詞→高兴高兴(ちょっと喜ばせる)

⑧形容詞の性質が変わる

単純に物事の性質・属性を示す静態性形容詞は疊語形容詞になると、物事の具体的な状況や生き生きとした状態を示す動態形容詞に変わる。即ち、元の性質形容詞は状態形容詞に変わる。

⑨辞書の表記において、形容詞は「形」で表記する、疊語形容詞は「形(～的)」で表記される。

⑩単音節形容詞の重ね形は連用修飾語となり、副詞としての機能をもつ。

○注意脚下，慢慢(儿)走。(足元に注意して、ゆっくりと歩いてください。)

(“的・地”をつけると、連用修飾語、連体修飾語、述語、補語にもなり、状態詞としての機能も有する。)

#### 4 終わりに

本来独立した一つの単語であったものに、単語を重ねたり、接辞などが付いたり、語形が変化したりして、別の一つの新しい語が生まれる。

形容詞をその性質によって分けると、日本語では属性形容詞と感情形容詞の二種類、中国では性質形容詞と状態形容詞の二種類となる。また、本来物事の性質・属性を表す形容詞は、疊語の形をとることによって、具体的な状況・様子を生き生きと描写する状態・感情形容詞に変わった。

日本語も中国も疊語形容詞が多いが、疊語形容詞のタイプにおいて、「AA しい」しかない日本語と比べて、中国語はタイプが多い。

本稿では、疊語形容詞の内部構造の分析、単語の語義・文法上の検討によって、いくつ

かの問題が解明したが、同時に新しい問題も見出された。疊語にできる単語とできない単語があるが、その規則性は何であるか。形容詞の重ね型は文中における位置によってどのような意味の違いを生ずるか。日本語の疊語形容詞のタイプすくないが、「AA しい」以外に別のタイプがないか、これらの問題については今後の課題としていきたい。

(留学生センター 教授)

---

### 【参考文献・資料】

分析及び分類・例文に使用した辞典

『逆引き広辞苑』(1992) 岩波書店

『電子辞書・漢字源』 ロゴヴィスタ 株式会社

『広辞苑 第6版』2009 岩波書店

『新明解国語辞典』2006 三省堂

『中日辞典 第2版』

2003 北京商務印書館・小学館

『大辞林 第三版』2006 三省堂

呂叔湘『現代漢語八百詞』 1980 商務印書館

興水 優『中国語の語法の話—中国語文法概論—』 光生館 昭和60年3月

石鍔「形容詞 ABAB 式重疊的の種類、形成时间及

其他」『广播电视大学学报(哲学社会科学版)』 2004年04期

黄斌「形容詞的重疊形式 ABAB 式」『武汉交通管理干部学院学报』2001年02期

西尾寅弥『形容詞の意味・用法の記述的研究』(秀英出版)

高見澤孟「認知意味論に基づく重複形容詞の分析」『高見澤孟先生古希記念論文集』

オーエム印刷

山本俊英(1955)「形容詞ク活用・シク活用の意味上の相違について」『国語学 第23卷』明治書院

尤 东旭「中日形容詞の比較」

田村 泰男「現代日本語の複合形容詞・派生形容詞・疊語形容詞について」

陣尚・吉田則夫「形態からみた日本語心情語彙の史的展開—語構成と品詞の観点から—」『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』第142号(2009)1-8

李凤吟「双音节性质形容词 ABAB 式重疊兼与 AABB 式比较」『集美大学学报(哲学社会科学版)』Vo19, N02JUN, 2006

晋荣和「現代語疊語形容詞の語構造について—転成との関連をめぐって—」『東北大学文学部日本語学科論集』第5号1995年